

101 回 切手教室レジュメ

オーストリア切手から考える

切手による比較文化笑論

小川 義博

オーストリア切手を集めて半世紀、ただ発行順に整理してきた。その作業もそろそろ終わりにしなければと感じ、アルバムをじっくり見直した。すると、今まで見過ごしていたことが気になりだし、整理してみた。おのずと、日本切手では見られないことが見えてきた。そこに、切手から文化、社会の比較が当然できるかと考え、この駄文を試みた。切手による比較文化笑論とお笑いいただければ幸いである。

オーストリアは連邦共和制国家（9の州から構成）、北海道の面積に大阪府と同じくらいの人々が住み、人口密度は島根県程度。民族構成は90%がゲルマン系、ほかにハンガリー系など東欧系、ユダヤ系民族で、宗教は78%がカトリック、5%がプロテスタント、ほかにイスラム教5%、ユダヤ教。このことを頭にいれて、1942年以降2010年頃までの切手約2300種を検討した。

まず、切手の形状はわが国より普通切手、特殊切手ともに大型である。発行状況はわが国の

大体3分の1程度、発行枚数は10分の1程度と考えられる。近年、変種切手の発行が見られるようになり、刺繍切手、クリスタルビーズ貼付切手、偏光効果印刷切手等が発行されてきている。また、我国で常態化している多種類単一シートも年間数回発行されるようになり、小型シートの発行も徐々に多くなっている様である。一番の変化は単色繊細な凹版印刷だけの切手が発行されなくなってしまったことである。復刻での発行を別にするとも1997年の著述家テオドル・クレマー生誕100年記念切手を最後に凹版はすべてグラビアと一緒に印刷されており多少の違いはあるが多色刷りとなり、過去の渋い、シックな美しい切手がみられなくなった。さらにグラビア印刷だけの切手が増えてきて過去のオーストリア切手の面影はなくなってしまっていくことは残念なことである。また、切手のためにデザインされたものが多く印刷されてきて、切手の下に、発行年（中央）、デザ



変種切手のうち

クリスタルビーズ貼付切手 と 刺繍切手



凹版印刷の切手の日の切手 ルーペの中の切手も凹版印刷

最近、多い凹版＋グラビア印刷のモダンアート切手



3つの版で印刷された普通切手の中の2種
デザイナー名が下左、彫刻者名が下右に記された凹版
デザイナー名のみ中央に記されたのが平版

イナ（左）と凹版の彫刻者の名前（右）が印刷されていた。切手の右下に小さい文字が見られれば凹版印刷がされていると判断できた。しかし、これも写真使用、撮影者と思われる記載が散見されるようになってきたようである。

大型で凹版の切手を中心に戦後の切手を発行目的、デザイン、等から整理すると、次のようなことが浮かび上がってきた。

○周年発行切手が多い

50年、100周年のような周年記念発行が全体を通じ非常に多いことが特記される。全体で550種の切手が周年切手であり、4種に1枚は周年切手である。これら周年切手を周年と発行内容を関連させて整理してみると表1のようになった。500年以上の発行内容に地方・都市に関するもの、宗教に関するものが多くある。これはこの国の成り立ちが古い歴史をもつ地域、都市、宗教にあり、現在もこの事実を確認

表1 周年切手の発行内容と周年数

周年	人物 生誕 死去	文化 資源 行事	政治 行政 外交	地方 都市	社会施設 資源 インフラ	宗教	教育関係	総計
～50周年	22	19	32	6	5	8	2	94
～100周年	112	40	29	9	37	2	3	232
～150周年	35	7	12	1	7		6	68
～200周年	27	17	6	1	1	3	3	58
～250周年	10	1	1					12
～500周年	12	1	1	6		1	4	25
～1000周年	2		2	34	2	11	1	52
～1500周年				11		2		13
～2000周年				2				2
総計	220	85	83	70	52	27	19	556



ブレゲンツ市2000年
記念切手

○宗教関係切手が非常に多い

カトリックが国教となっていると考えてもよい国柄、全体で約15%の切手が宗教に関連していると考えられる。さらに、その内容をみると非常に敬虔なカトリック信仰を強く感じることができる。まず、クリスマス切手、



敬虔な信仰を感じさせる切手
クリスマス切手 リンツ司教管区200年記念切手

して成り立っていることを表わしているのではと考えた。例えば、オーストリアのフォアアールベルク州の州都2000年切手がある。紀元前のケルト人集落を起源としハプスブルグ家の支配下になった都市の2000年を記念している。

多くの国がサンタ、プレゼント、デコレーションといった本来の目的から離れたテーマでの切手が多くなっているが、オーストリアは1、2枚の例外を除き、キリスト生誕を描いた切手で統一されていること、次いで宗教界での事項が切手で記念されていることからである。加え

て、司教管区、司教監督区、司教区、守護聖人、聖人、聖墳騎士団、枢機卿死去、法王動向等の周年、牧師の生死で発行されていること、また、修道院の建物、美術品シリーズ、聖堂再建切手に表現されている宗教芸術に関する切手が多く発行されていること、さらに聖堂とは反対に片田舎の道端に建てられたキリスト十字架像なども切手に見られること等からである。また、13日の祭日のうち10日が宗教に関わる日であることも宗教がわが国と異なる社会的位置づけにあることを考えさせる。(宗教以外は元旦、メーデー、建国記念日の3日)

○人物に関する切手が非常に多い

人物の生誕、死去の周年を中心に約350人が切手になっている。特殊切手の5、6枚に1枚は人物切手ということになり非常に多い。人物切手の多くが凹版印刷で顔が表現されているので美しい仕上がりとなっている。人物の対象領域も広く、わが国のように文化人中心でなく、学術文化、スポーツ芸能に加えて政治家も対象となり、大統領から奇術師まで幅広い領域で活躍した人物が切手になっている。なかでも、音楽関係の人物が5分の1、60人を超えており、



幅広い分野の人物が切手になっている

切手デザイナー	精神分析医	奇術師
モーツァルト	フロイド	デブラー
没後50年	生誕125年	生誕200年

そのうち約50人がモーツァルト、ハイドン等作曲家であることはお国柄であろう。また、はがき発案者、切手の先駆者、切手デザイナーと切手関係の人物4人が切手になっていることは切手上のデザイナー、彫刻者名の印刷とあわせ、切手に対する意識、関心が高く、わが国との相違を考えさせる。

○州、市町村等、地方自治に関する切手が多い

オーストリアは連邦共和制国家である。さらに、中世からの自治を維持した都市国家、城塞

都市を歴史にもつ都市が多い。このため自治体の歴史を記念する切手の発行が非常に多くなっていると考える。わが国でこのような記念切手を強いてあげれば、開府(仙台、萩、江戸)、開都、遷都に関する6件33種位だと考える。対して、オーストリアは約80件80種も発行されており、周年も50年から1200周年の範囲で発行されている。中でも、表1の如く、700年から850周年の発行件数が多くみられ、12、13世紀に地域の多くの町が自治権をもつ



地方の視点を重く見る切手

フェラブルック市	ザルツブルグ司教区と同市鉄道	
850年記念	1200年記念	100年記念

た都市に発展したことがわかる。さらに、宗教的要因が加わる司教区、司教監督区など地域の宗教の記念時にも切手が20種程度発行されていること、地方の鉄道、登山鉄道、さらにトラムの周年記念切手も22種発行されている。このように、地方の歴史を互いに尊重することで国を成立、存続させていることを感じる。

○自然だけを描いた風景切手が非常に少ない

美しいアルプスの山々に恵まれるオーストリア、風景の描かれた切手も多い。しかし、拡大してじっくり眺めるとわが国の風景の描かれた切手と比べ、自然風景だけを描く切手が非常に少ない。どこかに、城、民家、道、牧柵等が描かれている。例えば、1945～47年に発行された34種の風景の普通切手をみる2種だけが自然風景のみで残り32種には建物等が描かれ



1945年風景シリーズ34種中の自然のみの2種



1973-83 年発行美しきオーストリアシリーズ
自然のみの 2 種

ている。

また、1973～1983年に発行された28種の凹版＋グラビアで印刷された「美しきオーストリアシリーズ」普通切手も2種だけが自然風景だけで、残り26種は自然と建物が同じか、建物に重きを置いた構図になっている。オーストリアでは風景、景色を捉えるとき、人の手が加わったものと自然と同じウエイトを置いていると感じさせる。

また、1984～1988年に発行された特殊切手の自然の美観シリーズをみるとその感をさらに深くする。19種のうち4種に木道のようなものが描かれており、一種にはどうしてこの建物が？という感じのものがある。美しい山をバックに場違いなレンガ外壁5階建の建物が描かれている。このような構図はわが国ではまずとられないであろうと考える。さらに、注意を引く切手が3種ある。滝、鍾乳洞、森を部



1984-2001 年発行自然美観シリーズ 16 種に
みられる気になる 2 種の切手

分的にアップし、洞窟生成物（鍾乳石、石筍、石柱など）、流れ、樹木幹をズームアップで描いたものであり、この構図もわが国ではとられないのでは考えられ、風景、自然の捉え方、表現に相違がみられることを感じた。

さらに、わが国では意図的に避けられるであろうものが、逆に意図的に切手に描かれていると感じるものがある。それは柵である。鍾乳洞通路、公園内散歩道、牧場、田舎道等に造られた柵が14枚の切手にみられる。こんなことから自然の捉え方、自然への思いが異なることを感じさせる。

○動植物の切手が少ない

わが国の切手のうち、花、鳥、虫、魚、動物を描いたものを数えるとなんと約1200種（グリーティング、ふみの日、年賀切手を除く）を超え、5枚の切手のうち1枚には動植物が描かれている。対して、オーストリア切手を見ると動植物が描かれているものは非常に少なく約



世界狩猟会議記念切手と
狩猟と環境シリーズ切手の
1 種

90種と、20枚に1枚にやっと描かれているにすぎない。これら90種の内容をみると、花の描かれた切手約40種の多くは結核予防、ガーデンショーを目的に発行されたものである。また、鳥、動物を描いた切手35種も、愛護、保護目的の発行は最近になってであり、過去は狩猟会議、狩猟展、狩猟と環境という狩猟に関連する切手20種がすべてであった。

鹿が描かれた切手は4種発行されているがすべてが狩猟に関連しており、撃ち落とされた鳥が逆さに描かれた切手も見られ、狩猟民族と食習慣ということを考えさせられる。

わが国で狩猟に関連する切手は強いて探せば、2種の捕鯨を描く普通切手であろう（国際捕鯨委員会 (IWC) は除く）。これら以外に狩猟、



オオライチョウを狩猟の獲物として逆さに描いた国際狩猟展切手 と わが国唯一の狩猟に関与すると思われる捕鯨を描いた普通切手

そして漁業に関する切手はないか。今後も、一般哺乳類狩猟は絶対に切手にはならないであろうし、食糧事情が緩やかな時期であれば捕鯨場面も同じく切手にはならなかったと考える。この切手、世が世であれば、グリーンピースの豆デッポウの集中砲火をうけたであろう。農耕文化と狩猟文化の異なりとそれに繋がる食文化と時代背景を考えさせてくれる動物、鳥切手である。

このように動植物に対する思いの違いが切手発行に明確に表れていると考える興味深い切手がある。1952年ウィーン動物園開園200年切手である。動物園の切手と言えば、数種の動物を大きく描くのが普通であろう。ところがこの切手なんと建物が大きく中央に描かれ、丁寧に見ないと4辺のツル植物に配された9種の動物に気付かないでしまう切手である。この動物園の建物を見て、風景切手の建物の存在を考えさせられた。わが国は切手に花鳥風月を重んじたデザインの切手が多いが、風景切手で述べたように、オーストリアは人の関わった製作物、建



建築物を重視したウィーン動物園200周年記念切手

物等と人物、個人を重んじたデザインの切手が多いと感じ、かなり異なった考え方から切手デザインが発想されていることを痛感した。

○博物館、美術館、展覧会、大学等、学術文化に関するものが多い

国の歴史によるのであろうか、博物館、美術館、劇場等、文化発展目的の施設の切手が非常に多く発行されている。わが国でも発行されているが、大きな国立博物館、美術館の周年記念が中心で、その他は観光PR目的である。オーストリアでは、美術館、博物館、劇場、オペラ座等が周年切手を中心に45種発行されているがそのほとんどが地方の施設で、博物館も工芸、技術、自然、民族学等、幅が広い分野の博物館である。これら周年が100～175年であり、この地方の江戸末期から明治期の文化の質に興味を抱かせるものである。

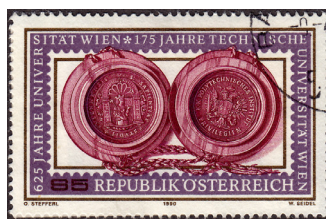


民俗学博物館50年



州立博物館150年切手

さらに、大学、学校の切手も100～400周年記念発行で、馬術、美術、工科、獣医、音楽等、幅が広い分野の教育の歴史背景が前述した文化施設の基礎となっていることを考えさせる。



ウィーン大学625年切手



スペイン乗馬学校400年切手

このような歴史、文化的環境が背景にあるためであろう、展覧会を記念する切手が約40種と非常に多く発行されていることが注意される(切手展は46種)。州、市、地方展覧会が8種あり、展覧会の内容にも地方を展示対象とした地方尊重的社会を感じさせるものがある。さらに、美術展以外に橋と砦、作曲家、鉄と鉱石、

鉱物と化石、狩猟、侍と芸者展といった多くの分野の展覧会が取り上げられ切手になっていることは文化への関心の幅と深さを示唆してはいないだろうか。



スタイアマルク州の
橋と砦展覧会

鉱業と鉱業の歴史
展覧会

オーストリアの学術、文化を考えると音楽の領域に触れざるを得ない。切手に見られる音楽の観点では、作曲家、指揮者等の前述した人物切手約 60 種以外に多くの音楽に関係する切手約 40 種が発行されている。曲目（きよしこ



「きよしこの夜」作曲
150 年切手



「美しき碧きドナウ」作曲
100 年切手



ザルツブルグ州立劇場
200 年切手



ウィーンフィルハモニー
125 年切手



ウィーン男声合唱団 150 年



ウィーンフィル
ニューイヤーコンサート

の夜、美しき碧きドナウ)、劇場、楽団、音楽祭、合唱団等の周年に切手が発行され、さらに、ピアノ製作、コンサート開催でも発行されており、さすが音楽の国ではといえる切手が多く見られる。

○切手のデザインに直接的なものが多い

オーストリア切手にわが国の切手には見られない悪く言えば、どぎつい直接的なデザイン、良く言えば、訴えるものがなにか分かりやすくデザインした切手が多くみられる。これは国民性というか文化の違いが切手に如実に表れているのではないかと考えさせられる。

まず、被占領国という立場の違いを考慮しても、このデザインはすごいと思うものが反ファシズム、捕虜救済シリーズ切手の一連のデザインである。怒り、苛酷な生活を直接、目に訴えるものである。



反ファシズム
キャンペーン切手



捕虜救済

また、日常生活場面での社会的啓蒙キャンペーン目的の切手のデザインは恐怖、痛みを直接訴えると同時に理解しやすいデザインで、わが国のソフトに訴えているデザインと明らかに異なる。加えて、血をそのまま赤で表現した切手が存在することに社会の背景にあるものの違いを感じさせられた。わが国の切手



シートベルト装着
促進運動



リウマチ治療
推進運動



女性に対する暴力
根絶運動



世界人権宣言 30 年



薬物依存防止運動



(上) 国連難民事務所 50 周年切手、両手、口から流れる血を赤く表現
(右) 強制収容所解放 50 周年切手 (右) 階段上から流れる血を赤く表現



一方、すぐれた印刷、デザインのなかに、意外な切手が発行されている。8 種の普通切手の加刷内容である。ユーモアの意図か額面表示の変更にとどまらず、デザインに変更を加刷したものであり、洒落ているか、ふざけすぎと捉えるか、興味ある加刷切手シリーズである。



2002 年発行オーストリアでの休暇シリーズ普通切手 2005 年改値加刷は牛の影が値を消し、牛を虎に化けさせ、柵の中に入れられてしまう。他の 6 種も奇抜な加刷がなされる。



モダンアートも大胆に切手に

○勤労者、労働組合に関連する切手が多い

国際的立場からであろう、中道的政治が長く続いたことで、労働関連法律、産業別労働組合の周年、労働環境改善を啓蒙する切手などが 30 種ほど発行されている。中でも 労働医学、労働者スポーツといった勤労者の健康増進と生活向上を目的とする切手と一連の職業別に労働環境の改善を訴える切手の存在が注目される。また、人物切手の多い中、労働組協議長の生誕 100 年の 1986 年に発行された切手の存在はこの時代の労働組合の存在の大きさを考えさせられるが、2000 年以降、この種の切手発行は減少しているようである。



郵便電信労働組合 50 年



建設業の労働環境

○移動運搬手段の歴史の相違が切手に見られる

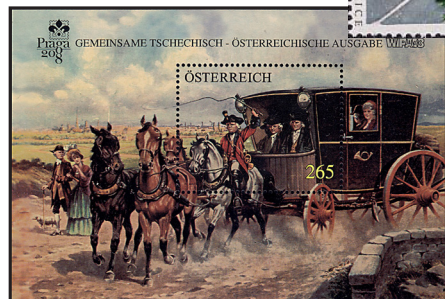
文化伝来上、地形上、制度上の問題から我が国で存在しなかった馬車の存在とその影響の姿が意外な切手にみられている。それは切手収集に関わる切手に馬車とバスが描かれていることである。手紙と人、物を運んでいた馬車が郵便事業に引き継がれ、経営形態は変わっても、ポストバスとして現在も運行していることを表している。このバス、スイス、ドイツ、イギリス(廃止?)、北欧などで、今も活躍している。各国でホルンのマークを付けたバスが切手になったり、玩具になっている。このバスに牛車、駕籠、輿の移動文化の日本との違いを痛感させられる。この馬車が発達しないで明治を迎えた理由が日本歴史の一つの謎であるということを知り切手から教えられた。



上左・切手の日の切手にザルツブルグのバスターミナルのPOSTBUS 上右・POSTBUS75周年記念切手

下左・2008年国際切手展小型シート、チェコ-オーストリア間郵便馬車 ホルンの郵便マーク

下右・英国 1985年 350 Years of Royal Mail Public Postal Service



○同一対象を繰り返し切手にすることが非常に少ない

わが国では同一人物、建物、生物等が10種類以上の切手に印刷されている。具体的には、富士山、さくらを除いても、国会議事堂、タン

チョウ鶴、前島密、法隆寺五重塔、姫路城、ペンギン、数えるのに苦労するほど多くの建物、生物等がくりかえし切手に印刷されている。反して、オーストリアは何回も切手をにぎわす人物、建物等は少ない。初代大統領、モーツアルト、クリムトの画、セメリング鉄道高架橋、国会議事堂、オペラ座が4~7種程度の切手に印刷されているにすぎない。小国であるのに、対象を重複させずに、切手を発行していくことができるのは世界文化遺産を多く持つお国柄だけではないであろう。

この他、少数民族融和を目的の切手からバルカン半島に接する国として、複雑な問題を抱えていることが感じとれる。



オーストリアの誇り モーツアルトとクリムトの切手も少ない

このように収集を終るにあたって筆を取り、もっと切手を丁寧にじっくり見て、アルバムに整理できていたらと反省させられることになったが、時すでに遅しである。



少数民族融和切手